

令和4年度 市小中連携研修会

谷山中グループ（谷山中・谷山小・西谷山小）



令和4年8月1日（月）

会場：鹿児島市立西谷山小学校

令和4年度「市小中連携研修会」

1 部会名

市小中連携研修会
谷山中学校グループ

グループ校

谷山中学校
谷山小学校
西谷山小学校（令和4年度会場校）

2 令和4年度グループの研究主題（2年次の研修）

一人一人の「生きる力」を育む教育を展開するための小・中学校の連携はどうあればよいか。
～ 小・中学校が協力した学習指導・生徒指導の工夫を通して ～

3 研究主題の設定理由

小・中学校では、児童生徒に生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの育成を図り、個性を生かす教育の充実に努めている。

しかし、児童生徒を取り巻く環境には、いじめや不登校など生徒指導上の諸問題、学力の個人差、家庭や地域社会の教育力の低下など、様々な課題がある。

このような教育環境の中で、自ら学び、自ら考える力や豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力など「生きる力」を育むためには、小・中学校が各校の学習指導や生徒指導の諸問題を共通理解し、義務教育9年間というスパンで見つめ直し、小・中学校がより連携を密にしながら、実態に即した指導、支援をすることが大切であると考え。また、小・中学校の職員同士が、グループ校として交流し、様々な情報を交換し合い、同一中学校区の児童生徒の健全育成を図っていくことで、よりきめ細やかな教育活動が展開されるとともに、相互の教職員の資質の向上にもつながると考える。

4 研究の視点等

- (1) 一人一人の「生きる力」を育む教育を推進する上で、9年間を見通し、各校の課題を基に、3校が共通して実践することが効果的であると思われる内容を検討する。
 - ア 学習指導（学業指導、各教科における指導法等）
 - イ 生徒指導（小学校から中学校へのスムーズな移行、不登校児童・生徒を出さない手立てと支援、メディアとの上手なつきあい方等）
 - ウ 小中接続（中1ギャップへの手立て、継続した支援の在り方等）
 - エ 特別支援教育（効果的な支援、かかわりへの留意事項等）
 - オ 保健指導（保健室利用の在り方、継続した支援の在り方等）
- (2) 小学校での教科担任制等の学習指導に中学校の専門的な指導を取り入れることによる指導の効果を確認し、今後の方向性を検討する。
- (3) 3校で継続した指導を行い、成果や課題を話し合い、共通理解、共通実践につなぐ。

5 令和4年度研究計画

期 日	会 名	場 所	内 容 等
5月27日(金)	小中連携研修会 推進委員会①	西谷山小学校	○小中連携研修会計画立案
6月16日(木)	小中連携研修会 推進委員会②	西谷山小学校	○出席予定人数の確認 ○各係の決定・発表資料作成
7月1日(金)	各校の進捗状況確認, 各校準備 各校の資料回収 → 製本		○形式に揃えて各校作成
7月25日(月)	小中連携研修会 推進委員会③	西谷山小学校	○研修会資料の完成, 送付
8月1日(月)	小中連携研修会	西谷山小学校	○分科会, 全体会等
8月24日(水)	小中連携研修会 推進委員会④	西谷山小学校	○資料作成, 送付 ○進捗状況確認, 情報交換等
2月17日(金)	小中連携研修会 推進委員会⑤	西谷山小学校	
	取組反省, 来年度確認 ☆必要に応じ推進委員会を開催し 共通指導内容の精選に努める。		

6 研修会当日の日程

15:00		15:15		16:00		16:10		16:40		16:45	
内容	受付	分科会 I		準備	生徒指導全体会		閉会行事				
場所	体育館	分科会会場			分科会会場						

7 協議題

(1) 分科会協議題

分科会名	協 議 題 名
I 学習指導	一人一人の「生きる力」を育てるために, 小・中で連携して, 段階的にどのような学習指導を行っていけばよいか。 ①国語 ②社会 ③算数・数学 ④理科 ⑤音楽 ⑥図工・美術 ⑦技術・家庭 ⑧体育 ⑨英語・外国語活動 ⑩道徳
II 小中接続	一人一人の「生きる力」を育てるために, 小・中で連携して, 段階的にどのような小中接続を行っていけばよいか。 (情報交換, 中1ギャップ対策)
III 特別支援教育	一人一人の「生きる力」を育てるために, 小・中で連携して, 段階的にどのような特別支援教育を行っていけばよいか。 (情報交換, 個のニーズに応える教育, 支援体制)
IV 保健指導	一人一人の「生きる力」を育てるために, 小・中で連携して, 段階的にどのような保健指導を行っていけばよいか。 (情報交換, 心のケア, 家庭・地域との連携)

(2) 生徒指導全体会協議題

積極的な生徒指導の在り方
～未然防止の視点から～

各分科会記録まとめ

※ 本年度は，紙面開催となったため，各校で分科会ごとに話し合い，まとめています。

学習指導

鹿児島市立谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような学習指導を行って
いけばよいか。」

- 1 本校の各教科等指導上の実態や主な問題点について
- 2 各教科等指導上の問題点に対する本校での取組について
- 3 小・中学校間で具体的に連携（情報交換等）を図りたい学習指導方法について

国語	<ol style="list-style-type: none"> 1 話す・聞く力の弱さ。漢字力に個人差があり、語彙力の少なさも目立つ。 2 授業内での発表話型の活用。学期ごとの漢字力テストや宅習での言葉集めや短文づくりの取組。 3 語彙力や表現力など、基礎的な力を高めるための取組。
算数	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的・基本的事項の定着をいかに図るか。 2 小テスト・計算力テスト（学期1回）の実施。 3
理科	<ol style="list-style-type: none"> 1 実験や観察に対して意欲的であるので、それを考察や理解につなげていきたい。 2 家庭学習の充実や理科の音読カードを作成している。 3
社会	<ol style="list-style-type: none"> 1 資料の読み取り、効果的な活用（導入、展開）。 2 基礎的・基本的事項の定着，社会科音読の実施，タブレット，デジタルコンテンツの活用。 3
英語・ 外国語 活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業には楽しんで取り組んでいる。スピーキングテストを今年から始めたが、全校で統一は図られていない。 2 単元ごとのペーパーテストとスピーキングテストの実施。 3 スピーキングテストの実施方法や評価基準。
家庭	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習したことを生かし，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成。 （家庭での取り組ませ方，継続的に取り組む態度の育成） 2 家庭で実践したことや実践して考えたこと，改善点等をワークシートに記入させる。 3
図工	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童は学習に意欲的に取り組んでいるが，教師の指導法の工夫。 2 作品が完成後の鑑賞の時間の確保。 3
音楽	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染症対策を取りながらの授業の実施。歌うことに対する抵抗感の削減。 2 換気・入室時の消毒の徹底。リコーダーの音を出さずに指練習する時間の確保。タブレットの活用。 3 感染拡大により実技指導が厳しいときの授業のあり方について。
体育	<ol style="list-style-type: none"> 1 1単位時間の運動時間の確保。教師による指導内容の差。 2 「小学生の体育」を活用した指導内容の統一。「小学生の体育」を事前に読ませることで，見通しをもたせ，活動を主体的かつ効率的に行う。 3
道徳	<ol style="list-style-type: none"> 1 行事，他教科や領域との関連を図る。 2 別葉の作成と見直しをする。 3

小中接続

鹿児島市立谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような小中接続を行っていけばよいか。」

1 本校の小中接続の実態や主な問題点について

(実態)

- (1) 夏季休業中の小中連携研修会での中1担任と旧6年担任の情報交換会の実施(本会)
- (2) 3月中旬に行われる新中1の情報交換会

(課題)

- (1) 本会の時間が限られているので、中学校の先生方の質問に十分答えられていないのではないかと。事前に、情報交換したい生徒の情報(氏名と主な問題行動)を知らせてもらえば、情報を収集、整理しておくことができる。
- (2) 3月の情報交換会も時間が限られているので、情報を確実に伝達できているとは言い難い。とはいえ、春休み中の実施も難しいと思うので、1学期中に旧担任が中学校に行き、問題行動のある生徒の情報提供ができる機会を作ってはどうか。

2 小中接続の問題点に対する本校の取り組みについて

小中連携研修会での決定事項を共通理解し、2学期からの学習指導、生徒指導等に生かす。

3 小中接続で具体的に連携(情報交換等)を図りたい内容について

- (1) 不登校傾向であった児童の進学後の様子
- (2) 小中連携研修会後の問題行動のあった生徒の様子
- (3) スマホ、ゲーム等の使用についての共通理解と共通実践
- (4) 中学校から小学校への要望(小学校卒業時の姿を具体的に示してほしい)
 - ア 学習の定着度(漢字や計算、社会の歴史学習、理科の実験観察の技能など)
 - イ 生活習慣(就寝・起床時刻、学習時間、家庭での役割分担など)

※ 中学校1年生の1学期の姿を想定した目標を示してもらった方が小学校は指導しやすい。

特別支援教育

鹿児島市立谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような小中接続を行っていけばよいか。」

1 本校の特別支援教育の実態や主な問題点について

(実態)

(1) 支援体制

特別支援学級	学級数	人数	職員数
知的障害	2学級	16人	2人
自閉症・情緒障害	6学級	34人	6人
肢体不自由	1学級	2人	1人
難聴	1学級	1人	1人
計	10学級	53人	10人

通級指導教室	本校	職員数
言語障害	37人	2人
自閉症・情緒障害	32人	3人
計	69人	5人

- (2) 特別支援教育コーディネーター4人で支援や就学に関する役割を分担している。
- (3) 特別支援教育支援員3人（常勤2人，兼任1人）が要請のあった児童の支援にあたっている。
- (4) 特別支援学級担任会を週1回，定期的にチーム会議や各種委員会を実施し，支援学級在籍児童，通常学級在籍児童の支援について話し合っている。

(課題)

- (1) 特別支援学級数が多いうえに，教室の配置がまとまっておらず，担任同士が連携を図りづらい。
- (2) 特別支援学級1学級に在籍する児童数が増え，個別に対応できる時間が短くなっている。
- (3) 支援員が対応しなければならない児童が多く，支援員が必要なときに配置できない場合がある。
- (4) 通常学級に支援が必要な児童が多く在籍するが，就学に対する保護者の理解が難しい。

2 特別支援教育の問題点に対する本校の取り組みについて

- (1) 週1回の特別支援学級担任会で担任同士の連携が図れるようにしている。
- (2) 特別支援学級に通級指導担当者が必要に応じて補助に入っている。
- (3) 今年度途中からではあるが，特別支援学級在籍児童も交流学級で給食を食べるようにした。支援学級担任も交流学級担任と一緒に給食指導をし，通常学級在籍で支援が必要な児童にも対応できるようにしている。
- (4) 通常の校内支援委員会の他にも臨時の支援委員会を開き，支援が必要な児童に対する支援の方法を考えている。

3 特別支援教育で具体的に連携（情報交換等）を図りたい内容について

- (1) 保護者や児童に対して特別支援教育についての啓発はどのようにしているのか。
- (2) 高校進学を考えている児童は小学校卒業までにどのくらいの学力をつけておけばいいのか。また，中学校卒業までにどのくらいの学力があれば公立の高校に進学できるのか等進路指導をどのようにしているのか。
- (3) 特別支援学級在籍児童の保健行事への参加はどのようにしているのか。

保健指導

鹿児島市立谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような小中接続を行っていけばよいか。」

1 本校の保健指導の実態や主な問題点について

(実態)

- (1) 疾病の予防及び早期治療のための各種検査，検診の実施
- (2) 重点実践事項の反省や内容検討を含めた保健指導強調月間（6月，10月，1月）の実施
- (3) 健康や命の大切さを主体的に考えさせるためのがん教育を年に1回実施

(課題)

- (1) 生活習慣の乱れによる視力低下や肥満傾向児童増加
- (2) 心身の不調を訴える児童の増加，保健室登校や不登校傾向児童の増加
- (3) SNS でのトラブルや自傷行為

2 保健指導の問題点に対する本校の取り組みについて

- (1) 個別の治療勧告，学校保健委員会にて保護者への啓発
- (2) 校内外の連携
 - ア 外部機関との連携 SSW，SC，医療機関，臨床心理士
 - イ 校内の連携 チーム会議やケース会議の実施，職員全体への周知（連絡会や see-smile 活用，生徒指導との連携）
- (3) SNS 等の使用について
 - ア 校区や市で決まっていることを周知。特に高学年は中学校を見据えた指導。
 - イ 家庭との連携やメディアのルールづくり，教育相談の実施

3 保健指導で具体的に連携（情報交換等）を図りたい内容について

- (1) 卒業生の中学校での様子
- (2) 中学校に進学するにあたって身に着けていてほしいこと
- (3) 保健室運営に関すること
 - ア 保健室登校への対応
 - イ 健康診断票の記入法

生徒指導

鹿児島市立谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような小中接続を行って
いけばよいか。」

1 生徒指導・不登校の実態や主な問題点について

(1) 生徒指導の実態や主な問題点について

ア 生徒指導の実態について

生徒指導の目的を達成するために、本校では、「教育活動全体を通して、子供たちの日常をより良いものに変えていくために、全職員が基準を“そろえて”指導を行うこと」を大切にしている。「重点実践事項を徹底すること」「生徒指導と学業指導を一体的に指導すること」「課題に迅速に対応すること」を基準として示し、共通実践することで、子供たちの日常をよりよくすることを目指している。

イ 主な問題点（生徒指導上の課題）について

- ① 「おはようございます。」「ありがとうございます。」「ごめんなさい。」が、自然に言える子供の育成を目指し、指導を続けている。
- ② 「履物をそろえる」指導を徹底するなど、子供たちの規範意識を高め、落ち着いた学校生活を送れるようにするために、機会を捉えて指導をしている。

(2) 長期欠席及び不登校児童の実態と問題点について

ア 長期欠席児童数（R4.6.30 現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
※1	0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名

※1：学校に来ていない日数が30日以上（理由問わず）

イ 不登校児童数（R4.6.30 現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
不登校児童	0名	1名	0名	0名	1名	3名	5名

ウ 主な問題点について

- ① 完全不登校で、担任と当該児童が一度も顔を合わせることができていない児童がいる。
※R3年度末から同様の状況が続いている。
- ② 欠席時に、保護者や本人との連絡が取れないことがある。
- ③ 不登校の原因やきっかけ等がはっきりしない児童がいる。

2 生徒指導・不登校の問題に対する取り組みについて

(1) 生徒指導の問題（生徒指導上の課題）に対する取り組みについて I-(1)-イに対する取り組み

- ① 子供たちが主体となった取り組みが行えるよう、児童会活動を中心に手立てを考えていきたい。
- ② 「よいこのきまり」を基に、全児童にそろえた指導を行っていきたい。

(2) 長期欠席及び不登校の問題に対する取り組み I-(2)-ウに対する取り組み

- ① 保護者との関係は良好であるため、引き続き連絡を取り合いながら、当該児童のニーズに合った支援方法を模索していきたい。また、必要に応じて関係機関との連携も図っていきたい。
- ②③ 電話連絡、家庭訪問等、様々な機会を通して、学校と保護者間の信頼関係の構築を図っていきたい。
※場合によっては、民生委員やS S W等の協力を得ることも必要であると考えている。

3 小・中学校間で具体的に連携を図りたい内容について

- 兄弟関係の情報の共有化（問題行動、不登校、家庭環境等）を図りたい。

→生徒指導関係の情報交換を定期的に行うための機会の創出あるいは方法の検討を行えないか。

（例：谷中サポート会議の前後の時間の活用、リモート会議の実施等）

- 谷山小では、R2年度から、全児童（家庭）を対象に「児童の電子メディアの使用状況調査」と「電子メディアに関する家庭のルールづくり」を、PTAの協力をもらいながら進めてきた。電子メディアに関する取り組みは、発達の段階に合わせて継続的に指導を行っていく必要があるものでもあるため、谷山中校区全体の取組として共通実践することができないか。

学 習 指 導

鹿児島市立谷山中学校

テーマ「一人一人の「生きる力」を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような学習指導・生徒指導を行っていけばよいか。」

1 教科指導上の実態や主な問題点について

- ① 各教科等指導上の実態や主な問題点について
- ② 各教科等指導上の問題点に対する本校での取り組みについて
- ③ 小・中学校間で具体的に連携（情報交換）を図りたい学習指導方法について

国語	<ol style="list-style-type: none"> ① 書字力の個人差に応じた指導について。話す・聞く指導（個人・集団）について。 ② ノートやメモのとり方について。（板書をノートに写せない生徒について） ③ 基礎・基本の定着に向けて、授業や家庭学習でどのような手立てを行っているか。
算数・数学	<ol style="list-style-type: none"> ① 公立高校入試（特に大問1）の傾向を踏まえて定着させるべき内容を絞りこみ、身につけさせる。 ② ノートをしっかり書かせること。ワークを活用させる。 ③ 家庭学習のみとりをする。
理科	<ol style="list-style-type: none"> ① 危険な薬品などを使用する実験中は特に立って実験をさせる。 ② 中学校に入ると危険な薬品を使用するなど、様々な実験があるので、実験に入る前に説明をよく聞いて、勝手に始めない、動かないようなしつけをしていきたい。
社会	<ol style="list-style-type: none"> ①グループ学習の方法（話し合いの進め方、練り上げの方法など） 聞き方名人、話し方名人のさらなる浸透。 ②ノートの書き取り。文章を書く練習もする。（答案の字が薄い） ③小学校時代の教科書、資料集、ノートなどを保存しておく。高校入試は小学3年から出題されるため）
英語・外国語活動	<ol style="list-style-type: none"> ①まずは中学校側が小学校の教科書の内容を理解して授業を行う。 ②小学校で学んだ表現（将来の夢や思い出など）を想起させる場面設定を行う。 ③簡単な表現を活用する言語活動に取り組む。
技術・家庭	<ol style="list-style-type: none"> ① ② 電動工具や刃物等、やや危険度の高い工具を使用する実習があるので、使用上のルールを徹底を図るべく、注意深く話を聞く姿勢を身につけさせたい。 ③ 手伝いをする習慣を身につけさせたい。
美術・図工	<ol style="list-style-type: none"> ① 作品制作や作品鑑賞について ② 周囲の生徒への気配りができるような指導。
音楽	<ol style="list-style-type: none"> ① 音楽のよさや美しさを味わえるような音楽活動の実施。 ② 自ら進んで音楽を楽しもうとする心の育成。
体育	<ol style="list-style-type: none"> ①礼儀作法、聞く態度など基本的なことを身につける。 ②運動に親しむ態度の育成。
道徳	<ol style="list-style-type: none"> ① 担任を含めた全職員で取り組む道徳授業のしくみづくり。 ② 道徳授業における多様な考え方を認める態度の涵養・指導法。 ③ 効果的な道徳教材・指導法の紹介

2 特別支援教育の必要な生徒への適切な支援について

分科会協議内容（情報交換、個のニーズに応える教育、支援体制）をふまえて

◆個のニーズに応える教育

- ・合理的配慮
定期テストでのルビつきテストの実施
- ・校内における特別支援教育推進委員会の充実
学年職員間での支援や配慮が必要な生徒の実態や支援についての共通理解
- ・就学指導の充実
対象生徒、保護者、担任、コーディネーターとの就学相談を進めている。

◆通常学級在籍生徒の支援体制について

- ・特別支援教育支援員の活用（現在通常学級9名の生徒の授業に入っている。）
※支援員と教科担任との連携、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成（支援員をつけている生徒）
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業や教室環境づくり（職員研修で「ユニバーサルデザイン」をテーマに、各教科で討議した。）

◆小学校との連携・情報交換について

○新1年生の引継ぎについて

- 通常学級在籍予定生徒についての会と特別支援学級在籍予定生徒についての会に分ける。
- ※通常学級の引継ぎには特別支援教育コーディネーターが必ず出席する。
- ※個別の教育支援計画・個別の指導計画、移行支援シート・実態票を確実に引き継ぐ。

○新1年生体験入学について

3学期1回の実施予定

○新1年生保護者面談について

- 1学期（6月中旬～7月）：通常学級も含めて小6を対象に、中学校での特別支援学級入級等に関する相談を行っている。希望があれば小6以外の家庭も相談可能。
- 3学期：（3月）：次年度谷山中学校特別支援学級に入学する児童の保護者全員を対象に個別に面談を行っている。
- ※上記の期間以外でも相談等がある場合は学年を問わず、対応いたします。

○谷山地区特別支援学級合同学習会の計画を進める。

- ・例年であれば、11月に実施されている。
- ・谷山地区では、「中学校校区ごとに交流を踏まえた活動ができればいいのでは」という話になっている

小 中 接 続

谷山中学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような学習指導を行っていけばよいか。」

1. 本校の小中接続の実態や主な問題点について

- ・ 入学通知書がそろわない。
- ・ 忘れ物が非常に多い。(学習用具や課題提出)
- ・ 大規模校なので、生徒の情報交換が3月の情報交換会の時間内で把握しきれていない内容がある。
- ・ 家庭学習の習慣が身につけていない。(国・英の音読や数学の計算スピード、正確さ)
- * 学習方法がわからないとの相談をよく受ける。
(小学校ではどう伝え、定着を図っているか知りたい。)

2. 小中接続の問題点に対する本校での取り組みについて

- ・ 4月の三者相談、6～7月の教育相談で共通理解・実践の場を設ける
- ・ 家庭学習の方法については、授業の場で指導し、改善策を示す。
- ・ 教科担や担任、副担など学年部で連携しながら、学習指導、生徒指導を行っている。

3. 小中接続で具体的に連携(情報交換等)を図りたい内容について

- ・ キャリアパスポートの取り扱いについての共通理解を図りたい。
- ・ 小6は、中学校生活を見据えた小学校生活を意識させたい。
(学習面では、授業態度、課題提出、家庭学習など、生活面では、頭髪、言葉遣いなど)
- ・ 3月に名前があがらなかったが、気になる生徒について確認をしたい。

保健指導

鹿児島市立谷山中学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような学習指導を行っていけばよいか」

1 本校の保健指導の実態や主な問題点について

- ・ 部活動、クラブチーム、塾通いで遅い帰宅時間となるため、学習時間がずれ込むなどで睡眠不足による体調不良来室者が多い。
- ・ 低視力者、未処置歯保有者が多い。
- ・ 朝食を食べてこない生徒(5%)主食の単品だけ食べてくる生徒(40%)排便が3日以上ない生徒(12%)[R4.5月1年生 食生活アンケートより]

2 保健指導の問題点に対する本校でのとり組について

- ・ 基本的な生活習慣の定着を図るために、早寝、早起きにとり組み、朝ごはんを食べることをまずは実践するように周知し、夏休みのチャレンジ課題を設けている。
- ・ 小中連携で行っているチャレンジ「ノーメディア」の実施。
- ・ 低視力者、未処置歯保有者への治療の勧め、保健指導の実施。

3 保健指導で具体的に連携(情報交換等)を図りたい内容について

- ・ 災害発生時の対応について(学年や担任との連携)
- ・ 家庭との連携について

生徒指導部会

鹿児島市立谷山中学校

テーマ 一人一人の「生きる力」を育てるために小・中で連携して、段階的にどのような学習指導・生徒指導を行っていけばよいか。

1 生徒指導・不登校の実態や主な問題点について

(1) 生徒指導の実態や主な問題点

校内での大きな問題行動等はなく、ほとんどの生徒は落ち着いた学校生活を送っている。しかし、どの校種や学校でも問題になっている LINE 等、SNS でのトラブルが多く、学校の指導方針としては、警察に相談する方法を保護者に伝えている。今後、更に他校生や卒業生とのつながりによる問題行動への発展が危惧されている。積極的な生徒指導を展開していかなければ、大きな問題行動に発展しかねず、危機感を持っている。

また、いじめに関して年3回いじめアンケートを実施し、学年で数件認知しているが、その後の教育相談や確認ですべて解消している。(前年度)

(2) 不登校の実態や主な問題点

現在、不登校生徒は 50 名程 (FS 通級生含む) である。学習室を新たに設置し、改善策を講じているが、依然人数は多く、本校の大きな課題の一つである。不登校の理由として、人間関係のトラブル、家庭環境、学習不安、怠学など様々であり、また家庭との連携が図れず、対応に苦慮しているケースもある。そこで対応として、隔週で行われる「心の教育推進委員会」で、現状報告や支援の手立て、カウンセラーや他の外部機関との連携について話し合い、個別の支援計画をもとに、支援チームで「サポート DAY」などを利用して本人や保護者との関係の構築に取り組んでいる。

2 携帯情報端末等の問題点に関する取組について

(1) 教職員・保護者向けの取組

- ① 校内への情報端末器持ち込み禁止とその指導に関する文書配布 (4 月初め)。
- ② 保護者を対象とした啓発活動「PTA 生活指導部から携帯・スマホに関する取り決め (夜 9 時から翌朝 8 時までは子供に情報端末器を使わせない) を提案」の実施。

(2) 生徒向けの取組

教科 (技術科、保健体育科など) や学活での資料を用いた授業を実施している。

(3) 県生活指導研究協議会等への働きかけ

「SNS サイトは児童・生徒にとって大変危険が多いものといえる。使い方やルール、モラルを学ばないとかなるというレベルを超えている。煙草や酒と同様に、法律で規制する必要があるのではないか。」という内容を県生活指導研究協議会等に働きかけている。

3 不登校の問題点に関する取組について

(1) 対人関係への配慮

- ① 学級編制を工夫する（4月初め）
- ② 学校行事や学活での構成的グループエンカウンターを活用し工夫する（4月初め）

(2) チームによる対応

- ① 個別支援計画を作成すると同時に、できるだけ早く対応チームを発足する。
- ② 校内に教室と FS の間の場である「学習室」を設置し、登校を促す。（登校の記録の活用）
- ③ 各週おきに開催されるチーム会議「心の教育推進委員会」を充実させる。
- ④ スクールカウンセラー・民生委員からの情報をもとに対応を再検討する。
- ⑤ サポート DAY（毎週金曜日）の役割分担・実践を徹底する。

(3) 対人関係の改善

- ① 苦手意識の克服
- ② 自己有能感・自己存在感の獲得

(4) 学習面の改善

- ① 「わかる」授業の実施
- ② 習熟度別・少人数指導の授業展開

(5) 長期休業中の取組

- ① 欠席が目立つ生徒への教育相談等
- ② 学業不振の生徒への補充学習等
- ③ 不登校及び不登校傾向にある生徒の保護者会実施

登校の記録
この記録はあなたが目標をもって生活することで、自分なりに前に進めるようにするためのものです。

月 日 ()

年 組 名前

今日の目標（出来るようになりたいことや、頑張りたいことを書きましょう。）

昨夜寝た時刻 : 今朝起きた時刻 :
登校時刻 : 下校時刻 :

校時	クラスの時間割	予定	活動の記録	別室の先生より
学活			特設 個別サポート	
1				
2				
3				
4				
給食				
掃除				
5				
6				
学活				

今日の振り返り（今日の目標への反省、感想などを書きましょう。）

別室のサイン

4 小・中学校間で具体的に連携を図りたい内容について(案)

(1) 生活目標を達成させるための手立てをそろえる～小中学校のスムーズな接続のために～

- 「規則的な生活リズムの確立」
 (例) 小学校で実施されていることを参考に「早寝、早起き、朝ごはん」の自己評価及び指導を小中学校共通で取り組む。また、校内では廊下にたまらないなど、授業前の過ごし方を統一する。
- 「清掃で心を磨く（自問清掃）」
 (例) 教室や廊下など一般的な場所についての清掃マニュアルを確認する。少なくとも小学 5、6 年生、中学 1～3 年生で雑巾の使い方、ほうきの使い方、机の運び方、清掃手順等を統一する。
- 「元気のよい挨拶」
 (例) ・立ち止まって、挨拶をする。
 ・登下校の際に正門付近で一礼をする。
- 「身なりを整える」
 (例) 小学校 5、6 年生については中学校の生活心得（谷山中のきまり）を参考に、早い段階から服装身なり指導をしていく。

(2) LINE, SNS サイトへ接続できる機器を「持たない、持たせない」啓発運動

- 児童生徒が SNS サイト等を使用するデメリットを指摘し、保護者や地域の方へ SNS サイトへ接続できる情報端末器を児童生徒へ持たせない指導を小中学校で協力して行っていく。
 ※ ネット内でのなりすましや、からかいが増えている。

学習指導

西谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような学習指導を行っているか。」

- 1 本校の各教科等指導上の実態や主な問題点について
- 2 各教科等指導上の問題点に対する本校での取組について
- 3 小・中学校間で具体的に連携（情報交換等）を図りたい学習指導方法について

国語	<ol style="list-style-type: none"> 1 聞く力の弱さ。語彙力の少なさや自分の思いを表現する（話す・書く）力の不足。 2 家庭学習・読書の充実と表現する場や機会を設ける。モデル文を使っての演習。 3 語彙力・表現力を高めるための取り組み。
算数	<ol style="list-style-type: none"> 1 既習内容理解度の個人差あり。主体的・対話的で深い学びができる授業展開の工夫。 2 算数科における「よく考え、深く考える」子供を目指す授業の工夫 ・学年の実態把握 ・「深く考える」場面や手立ての設定、子どもの姿の具体化 ・思考過程の構造化 3 学ぶ楽しさを味わえる数学的活動の充実を図るための取組をどのように行っているか。
理科	<ol style="list-style-type: none"> 1 実験・観察結果から考察をし、表現する力に個人差がある。 2 書く時間の確保をして自分の考えを持たせるようにする。 3 グループ活動で、実験の技能を一人一人に身に付けさせる取り組みをどのように行っているか。
社会	<ol style="list-style-type: none"> 1 実際に見学等行う機会が少なくなっている。 2 遠足等も含め見学の機会を確保すると同時に動画等も使用するようにしている。 3 用語等の定着の仕方の工夫・見学機会をどのように確保しているか。
英語・ 外国語 活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 AEAを活用しながら各担任が進めているが、教材研究や準備、打合せの時間確保が課題である。 2 作成した教材の共有と引継を行っている。 3 クラスルームイングリッシュの情報交換及び共有を行う。
家庭	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習したことを家庭生活に生かすための場の設定や見届け等の在り方。 2 通信等で授業で実施した内容を家庭に伝え、それを踏まえ各家庭で行った取り組みを日記に書いたり家庭からの一言というような形で書いてもらったりしている。 3 実習以外の学習内容における指導の在り方や実生活での取り組みをどのように行っているのか。
図工	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科の特性上、指導内容が曖昧な部分があり、指導方法に苦慮する。 2 研修等を通して、知識となる造形的な視点を確認したり、学習過程を紹介したりして、基本的な指導方法を明らかにしている。 3 「形や色などの造形的な視点」と「イメージ」といった共通事項の内容について、各授業で意識的に板書したり働きかけで活用したりする。
音楽	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科の特性上、コロナ禍での歌唱及び器楽指導の方法に苦慮する。 2 マスク着用、アクリル板使用、換気を行った上で歌ったり、器楽指導においては、階名唱や運指を重視し、短時間で演奏したりしている。 3 表現力を高めるための取り組みや工夫について、情報交換をしたい。
体育	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動能力に大きな個人差が見られ、「運動好き」な児童を育てるための多様な手立てが必要である。 2 「タブレット」を活用して、自分の動きを確認し、技術と活動意欲の向上を図る。 3 単元のねらいにせまる学習過程や学習方法を、どのように工夫しているか。
道徳	<ol style="list-style-type: none"> 1 SNSの普及とともに問題も増え、道徳的価値を自分事としてとらえる事が気薄になっている児童がいる。 2 生徒指導とも連携を図り、職員全体で共通して指導ができるようにしている。 3 道徳的価値の議論の場の取り組みや工夫について情報交換をしたい。

小中接続

西谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような小中接続を行っていけばよいか。」

1 本校の小中接続の実態や主な問題点について

(実態)

卒業生の学習の状況や問題行動、不登校傾向などの情報交換会の実施（3月中旬）

(課題)

- ・ 3月行われる情報交換会に出席される先生方と新1年生になられた先生方が同じでない場合もあるので、交換した情報が確実につなげられるとよい。また、小学校で編成したクラスを、何らかの事情で変更される際には、一言相談していただくとありがたい。
- ・ 中学校から小学校2校へ、学習面・生活面の指導について改善してほしいことや要望があると思うので、情報共有できる機会が増えたらよりよい連携になると感じる。
- ・ 3月中旬に実施された情報交換の時間が、児童数に比べて短く、きちんと伝えられないこともあった。十分に時間を確保できるように、春休みの実施などはできないだろうか。

2 小中接続の問題点に対する本校の取り組みについて

- ・ 学習指導の課題や生徒指導情報交換会の実施。職員全体で課題を共有。それをいかに中学校に接続するか。定期的な情報交換の場があってもよい。
- ・ 不登校傾向にあった児童が中学校進学後に深刻化するケースが多いとのこと。児童との関わりや家庭との連携について協議したい。

3 小中接続で具体的に連携（情報交換等）を図りたい内容について

- ・ 卒業生の現状。情報交換。
- ・ 小学校から情報は送るが、その後どのような感じなのか、2学期以降の情報も知りたい。
- ・ コロナが落ち着いた際には、総合的な学習などの学習を通して、小6と中1など、交流を図ることができればありがたいと感じる。
- ・ 中学校に進学した後、メディア端末（特にスマホ）の所持率が増えて依存度が高まるとのこと。「メディア端末の利用」については、3校の連携はもちろんであるが、3校PTAも含めた協議が必要である。また、低年齢化も見られるため、谷山小との情報交換も必要ではないか。
- ・ 中学校としては、小学校卒業までにどのような指導を徹底してほしいか。

特別支援教育

西谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような特別支援教育を行っていけばよいか」

1 本校の特別支援教育の実態や主な問題点について

- ・ 令和4年度の特別支援学級9学級（知的3 情緒6） 年々増加傾向である。
- ・ 特別支援教育支援員配置 2名（常勤）
- ・ 基本的な生活リズムの乱れ，不登校傾向が見られる児童がいる。
- ・ 感情のコントロールが難しく，対人関係でのトラブルが見られる。
- ・ 継続的な指導がなされていない。
- ・ 学校側と保護者とで児童に対する認識に大きな剥離があり，合意形成が厳しい事例がある。
- ・ 職員が多く，年齢や職歴に幅があるため，特別支援教育への理解度に差が見られる。

2 特別支援教育の問題点に対する本校での取組について

- ・ 特別支援学級担任連絡会を毎週実施し，共通理解を図っている。
- ・ 校内の連絡会や学年会，交流担任との情報共有を通して，共通理解を日々図っている。
- ・ 夏季休業中に，職員研修を実施。

3 特別支援教育で具体的に連携（情報交換等）を図りたい内容について

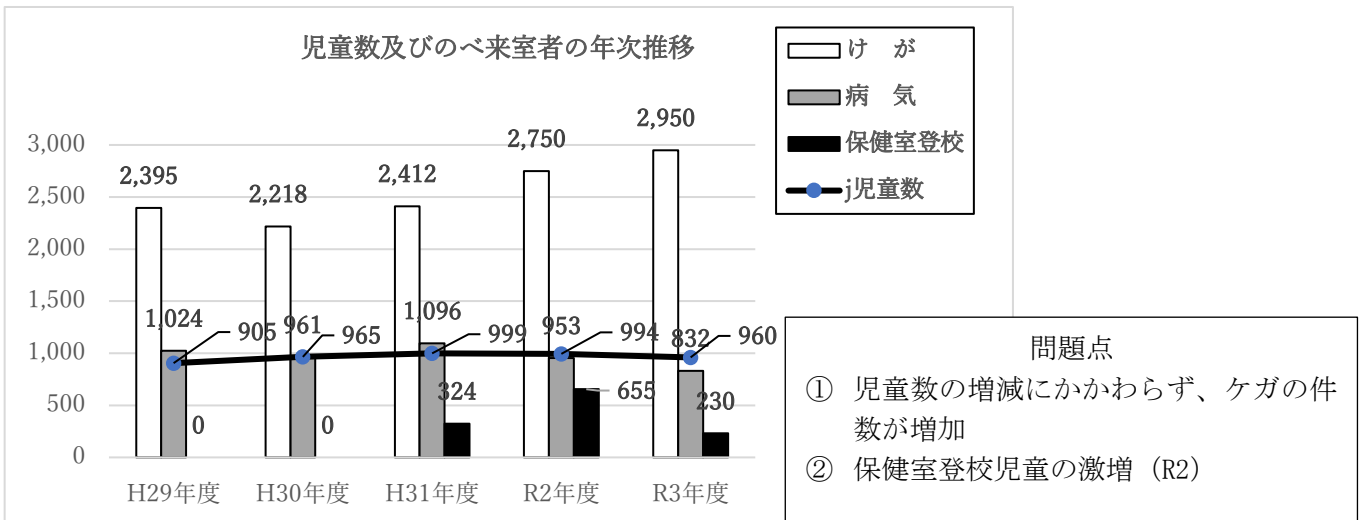
- ・ 5，6年の保護者に情報提供できるように，中学校での支援学級の状況を教えていただきたい。
- ・ 基本的な生活リズムの乱れ，不登校傾向が見られる児童に対しての対応。
- ・ 児童・保護者の教育的ニーズの把握及び合意形成のあり方

保健指導

西谷山小学校

テーマ 「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような保健指導を行っていけばよいか」

1 本校の保健指導の実態や主な問題点について



2 保健指導の問題点に対する本校での取組について

(1) けがの防止策

- ・保健委員会の活動で、校内の危険箇所探しを実施。児童からの意見をもとに校内安全マップを作成し、校内に掲示した。(R3)
- ・運動場での衝突が多いことからボール遊びゾーンを決めた。(生徒指導部)



(2) 熱中症対策

- ・教育課程に熱中症対応を挿入。熱中症指数が高い場合には、運動・昼休みの遊びを制限することを明記。

保健委員会の放送原稿
 「保健委員会からのお知らせです。今日は、暑さ指数がとても高く、「原則運動中止」となっています。運動をすると、熱中症になるおそれがあります。今日の昼休みは、静かに室内で過ごしてください。・・・略」

(3) 不登校対策コーディネーターを中心とした不登校対策の推進

- ・コーディネーターを中心としたケース会議の開催（学年会で時間設定するなどの工夫）
- ・心の教育推進委員会で、対象児童の把握及び対応の確認
- ・校内に居場所（別室）を設け、完全不登校にならないようにする。

3 保健指導で具体的に連携（情報交換等）を図りたい内容について

- ・熱中症アラートの活用方法について
- ・中学校で不登校になった児童の進路について
- ・不登校に対する外部機関との連携の在り方

生徒指導

西谷山小学校

テーマ「一人一人の『生きる力』を育てるために、小・中で連携して、段階的にどのような生徒指導を行っているか。」

1 本校の生徒指導上の実態や主な問題点について

平成31年から令和3年までの不登校及び不登校傾向にある児童の推移をみると、毎年20～30名前後でありかつ継続の児童が多い。また、欠席日数が100日を超える児童が令和2年度は3名であったが、令和3年度は倍の7名となり、児童はもちろんであるが保護者への働きかけ方も課題であることが明らかになった。

不登校の問題と相互関係がある課題、メディア端末の利用に伴う生活リズムの乱れや交友間のトラブル、暴言や暴力等の問題行動も看過できない。

これらのことから、西谷山小学校の生徒指導に関する問題点である「不登校及び不登校傾向に関すること」「メディア端末の利用に関すること」「問題行動に関すること」について、3校で協議したいと考える。

2 本校の生徒指導・不登校の問題点に対する本校での取組について

(1) 情報交換会の実施

問題行動及び不登校傾向にある児童についての情報交換会を、毎月実施している。情報の共有化は為されるようになったが、事例ごとの解決策を具体的に話し合う時間が設定できていない。

(2) 教育相談室（別室）の設置及び不登校対策支援コーディネーター配置

不登校傾向にある児童の居場所を確保するために、令和3年度から別室を設けている。令和4年度は教育相談室を新たに増やし、保護者承諾のもと3名の児童が利用している。利用に当たっては、教育相談係と不登校対策支援コーディネーターが連絡調整をして、利用児童の保護者を対象にしたケース会議を実施し、利用及び運営について説明している。

3 小・中学校間で具体的に連携（情報交換等）を図りたい内容について

不登校及び不登校傾向に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向にある児童の保護者との連携の取り方や支援方法 ・各校の支援体制（別室及び専用の教室、人員配置の工夫、タブレット等を活用したオンライン学習） ・学校不適應の児童への声かけ（どうしたいのか、どうありたいのかを引き出すにはどうしたらよいか） ・初期対応について（どこまで登校刺激を与えたらよいのか、本人にどのような声かけがよいのか） ・不登校傾向のある生徒にどのような支援をしているのか。（進路指導及び進学先） ・不登校にあった児童が、現在、中学校でどのような様子か知りたい。 ・外部機関との連携の在り方（機関名、接続方法、実績など）
メディア端末の利用に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・メディア端末の利用状況（児童生徒の身近な端末、利用について制限があるか、適切な使用方法を説明しているか、問題点や課題点、親のスマホ等を利用している実態、個人所有・所持の割合） ・保護者への啓発（家庭との連携、基準、3校で揃える必要はないか） ・各校の取組（ロイノート使用時に個人間の情報共有に制限を設けているか、持ち帰りの頻度、トラブル発生時の対応、授業以外の使用について、校内ルール、ICT活用事例） ・トラブル事例（SNS上のトラブル早期発見方法）
問題行動に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動を未然に防ぐ取組（各校どのように情報共有しているか、効果的であった取組や働きかけ方、対応・指導の在り方、要因・原因の分析） ・感情のコントロールが難しい（言動が荒くなる）児童生徒への対応 ・家庭及び外部機関との連携について ・学級及び学校不適應の児童生徒への対応（教室に入れられない子供にどのように接したらよいか、また、その保護者にどのように対応したらよいか） ・各校の問題行動事例（小中の違い、介入の仕方と関わる人員配置、保護者への連絡の仕方）